

● 翻訳

パーソンセンタードのコミュニティサービスワーク、単元1、演習教材<sup>i</sup>  
— Community Service Work in Person Centredness, Module 1, Assessment Booklet —

東洋大学福祉社会開発研究センター 研究支援者  
木口恵美子

【キーワード】 パーソンセンタード、障害、価値、倫理、専門性

次の8単元で構成されている。各単元の内容は次の通りである。

【解題】

2011年に「障害者自立支援法」が改正されて「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）」となり、2012年4月からサービス等利用計画の作成が必須となったことから相談支援が重要とされ、その中で「本人中心相談」、「本人中心アセスメント」、「本人中心支援計画」など、「本人中心」を組み込んだ言葉が用いられるようになっている（朝比奈、北野ら2013）<sup>ii</sup>。

この「本人中心」という用語は、英語では「パーソンセンタード」が使われており、障がい者分野では「パーソンセンタード・プランニング」、高齢者分野では「パーソンセンタード・ケア」など、支援や介護や看護の場面で、本人を中心にした考え方や関わり方が導入され、注目されている。

障がい者の相談支援における「本人中心」への着目は、制度を運用する上で大切な視点であると思われ、実践と共に実践を支える研究の積み重ねが必要である。

本稿で紹介するのは、シドニー大学障害学センター<sup>iii</sup>が開発した、Diploma of Community Service Work in Person Centredness<sup>iv</sup>の単元1の演習教材の一部を翻訳したものである。

このコースは、障害学センターがニューサウスウェールズ州から補助金を受け、障がい者の支援に関わるパーソンセンタードの実践者を養成することを目的とし、実践者や障がい者の支援に関わろうとする者を対象に2013年に開講したもので、

単元1：パーソンセンタードネス：

- 自分自身の専門的実践の振り返りと進展
- クライエントの発達の確認
- 法的、倫理的業務実践の維持

単元2：パーソンセンタード・アプローチ

- 有効な職場のコミュニケーションの開発、実施、促進
- 体系化されたカウンセリング(相談)の枠組みにおける仕事
- 権利擁護と代理のサービスの提供

単元3：パーソンセンタード計画

- ケースマネジメントのすべての側面の進展促進、監視
- グループ活動の計画と運営

単元4：パーソンセンタード・アクション

- 徹底的にクライアントと共に働く
- 意思決定のプロセスにおけるクライアントの支援

単元5：サービスシステムの変化

- 地域の発展戦略の実施
- 地域組織の設立と進展

単元6：パーソンセンタードの支援

- 職場の健康と安全(Work health and safety: WHS)への寄与
- 支援の手続きの企画・立案。
- 複合的な評価と照会の運営・管理

単元7：インクルーシブな地域

- 地域参加とインクルージョンの支援

単元8：社会と法律の変化

- 地域活動と地域サービスにおけるクライアント

への社会的要素の影響の分析。

- 地域開発をより可能にするために組織や行政の構造の中で働く。

単元1には、パーソンセンタードの実践において求められる支援者像や倫理や価値など、実践の基礎や基盤となる内容が組み込まれており、演習を通して学習者が自ら考え、振り返ることや職場で仲間と共に振り返りを行うことを求めている。

我が国の障害者福祉の領域で、「本人中心」を理解し、具体的に実現する上で、支援者に求められる視点や支援者としての成長に必要なスキル等の提示のみならず、ソーシャルワークの学習や実践の進展に寄与できると思われる。

**【本文】**

**アセスメント1：練習と振り返り**

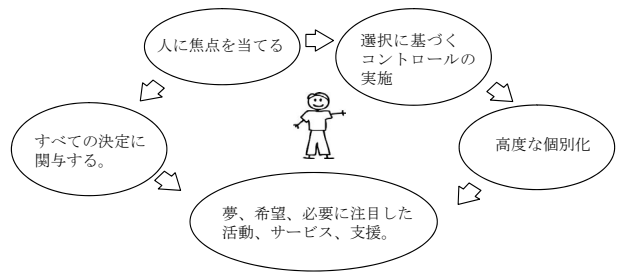
パーソンセンタードの視点から考察する力を調べる。

**練習1：日常生活への現れ方**

	あなたは日常生活にどのように現れていますか？	あなたが知る障害者の生活はどうか？
住まい		
仕事		
家族の行事		
友人関係		
余暇活動		
クラブ活動・社交		

**練習2：パーソンセンタード・アプローチの振り返り**

下の図に示された特徴を読み、一緒に働く人を考えて、その人の生活にそれぞれの側面がどれ程影響しているか、1-5で答えましょう。その人のためにさらにできることは何ですか？



特徴					
焦点化	1	2	3	4	5
管理	1	2	3	4	5
決定	1	2	3	4	5
個別化	1	2	3	4	5
支援	1	2	3	4	5

**練習3：肯定的配慮**

無条件の肯定的配慮の特徴を示した次の表に関して、支援をしている人を考えて、どのように関係性に反映させるか、または現在の関係の中でこの特徴を表す方法を書きましょう。

構成要素	説明。
尊重	尊厳の尊重。
非審判	可能な限り非審判的である。
許容	その人を受け入れる。
価値づけ	それぞれが唯一無二で価値があると理解しあう。
賞賛	達成を祝うこと。
配慮	人を気づかい、彼らにとっての最良を望む。
育成	多様な方法でその人の成長を助ける。
思いやり	何が重要かを見つけるために葛藤する人を思いやる。
温かさ	人と温かな関係を持つ。
愛	豊かな肯定的な関係。

**練習4：パーソンセンタードが意味すること**

あなたが考えるパーソンセンタードの意味を、3点次のリストに加えましょう。

- 支援する人の靴を履いて歩く一共感する。
- 希望と選択を優先させる。
- 価値ある友人、貢献する市民となる。
- 自立とインクルージョンを促進する。

- 本人から聞いて学ぶ。
- 自分と向き合い、変化に対してオープンで、前進しようとする。
- 柔軟に、かつ深く考える。
- 人として成長し、支援者として成長する。
- 自分が扱われたいように他者を扱う。

**練習5：あなたの組織とパーソンセンタードネス**

次の達成リストを読み、二人組になって、自分の組織について話しましょう。

1. 地域に存在すること - 組織は、どれ位その地域に障がいを持つ人の存在を増やしているか。
2. 地域参加 - 組織は、どれ位人々の友人関係を広げ、深めているか。
3. 価値ある役割 - 組織は、どれ位人々の信用を広げているか、そして、人々が貢献できる方法を増やしているか？
4. 選択の促進 - 組織は、暮らしの中で管理と選択を増やす支援をどれ位行っているか。
5. 貢献の支援 - 組織は、能力を伸ばし、個性的な才能に寄与する支援をどれ位行っているか。

**練習6：個人の価値の引き下げ**

価値を下げられたと思う人の生活を考え、これらの傷が関連するか考えましょう。

- 拒絶
- 孤立、隔離、集団扱い
- 物理的環境からの除名、排斥
- 社会関係、人間関係の断絶
- 不安定と自己嫌悪
- コントロールの喪失
- 貧困
- 経験不足
- さらなるレッテル

**練習7：パーソンセンタードの国連障害者の権利条約の評価**

(略)

**練習8：価値観を知る。(ラス・ハリス 博士<sup>Y</sup>)**

ステップ1：価値を一読して大切だと思うものを10個選びます。

ステップ2：パーソンセンタードの実践に大切だと思うものを10個選びます。

ステップ3：それらの価値は同じですかそれとも異なりますか？

受容：	自分自身、他者、人生その他にオープンで、受容的である。	<input type="checkbox"/>
冒険：	大胆になる；積極的に求め、創造し、または、新しい、刺激的な経験を探る。	<input type="checkbox"/>
主張：	自分の権利を守ることを尊重し、自分の望むことを要求する。	<input type="checkbox"/>
誠意：	誠実、正直である；自分に正直である。	<input type="checkbox"/>
美しさ：	自分自身、他者、環境その他の美しさを賞賛、創造、促進し、磨く。	<input type="checkbox"/>
ケア：	自分自身、他者、環境その他をケアする。	<input type="checkbox"/>
挑戦：	自分の成長、学習、上達のために挑戦し続ける。	<input type="checkbox"/>
思いやり：	困っている人に優しくふるまう。	<input type="checkbox"/>
つながり：	自分が行っていることが何であれ没頭し、他者と共に存在する。	<input type="checkbox"/>
貢献：	自分や他者のために、貢献、手助け、手伝い、または前向きな変化を起こす。	<input type="checkbox"/>
従順：	規則や義務を尊重し、従順である。	<input type="checkbox"/>
協調：	他者と協動的で協力的である。	<input type="checkbox"/>
勇気：	勇敢で、勇ましい；恐れ、恐怖、困難に対して辛抱強い。	<input type="checkbox"/>
創造的：	創造的で革新的。	<input type="checkbox"/>
好奇心：	好奇心が強く、探検や発見にオープンマインドで、興味を持つ。	<input type="checkbox"/>
激励：	自分や他者にとって価値ある振る舞いを奨励し、報いる。	<input type="checkbox"/>
平等：	自分に対するように他者に対する。逆も同様に。	<input type="checkbox"/>
興奮：	刺激的で、非常に興味があり、ワクワクする活動を求め、創造し、没頭する。	<input type="checkbox"/>
正直：	自分や他者に正直である。	<input type="checkbox"/>
健康：	自分の健康を維持し、促進する；自分の身体的、精神的健康と良い生活に気をつける。	<input type="checkbox"/>
柔軟性：	環境の変化に進んで適応し慣れる。	<input type="checkbox"/>
自由：	自由に生きる；どう生き、振る舞うかを選び、他者も同様であるように助ける。	<input type="checkbox"/>
親しみやすさ：	友好的、親しみやすく、他者に対して感じが良い。	<input type="checkbox"/>

寛容：	自分自身、他者に寛容である。	<input type="checkbox"/>
楽しみ：	楽しいことが好き；楽しい活動を求め、創造し、没頭する。	<input type="checkbox"/>
気前が良い：	自分や他者と惜しみなく共有し、与える。	<input type="checkbox"/>
感謝：	自分、他者、人生の良い面を喜び感謝する。	<input type="checkbox"/>
誠実：	自分と他人に誠実、正直、忠実である。	<input type="checkbox"/>
ユーモア：	人生のユーモアの面を見つけて評価する。	<input type="checkbox"/>
謙遜：	謙虚で慎み深い；謙虚さそのものを達成とする。	<input type="checkbox"/>
勤勉：	勤勉で、働き者、専念。	<input type="checkbox"/>
独立：	自分で自分のことを行う。自分の方法で物事を行う。	<input type="checkbox"/>
打ち解ける：	開放的で隠し事が無く、近しい個人的な関係で、自分の感情や身体を分け合う。	<input type="checkbox"/>
正義：	正義と公正を支持する。	<input type="checkbox"/>
優しさ：	自分や他者に優しく、思いやりがあり、思慮深く、育み、ケアする。	<input type="checkbox"/>
愛：	自分や他者に、愛情をこめて、優しく振舞う。	<input type="checkbox"/>
注意深さ：	自分の現在の経験を自覚し、受け入れ、好奇心を持つ。	<input type="checkbox"/>
秩序：	秩序があり、整理されている。	<input type="checkbox"/>
オープンマインド：	物事を考えぬき、他の視点から物事を見て、事実を公平に考える。	<input type="checkbox"/>
忍耐：	自分の望みを落ち着いて待つ。	<input type="checkbox"/>
粘り強さ：	問題や困難に関わらず、固い決心を持ち続ける。	<input type="checkbox"/>
喜び：	自分や他者に喜びを創造し与える。	<input type="checkbox"/>
力：	他者に強い影響や権威を行使する。例えば、責任を持つ、リードする、組織することなど。	<input type="checkbox"/>
相互利益：	ギブアンドテイクの公平なバランスがある関係を築く。	<input type="checkbox"/>
尊敬：	自分や他者に礼儀正しい；丁寧で思慮深く、前向きな考えを示す。	<input type="checkbox"/>
責任：	自分の行動に責任を持ち、説明できる。	<input type="checkbox"/>
ロマンス：	空想的である；愛情や強い感情を持ち表す。	<input type="checkbox"/>
安全：	自分や他者にとっての安全、保護、安全の保障。	<input type="checkbox"/>
自己覚知：	自分の考え、感情や行動を自覚する。	<input type="checkbox"/>
セルフケア：	自分の健康、福利、必要なものを得ることに気を付ける。	<input type="checkbox"/>
自己発達：	知識、技術、性格、人生経験において、成長、前進、進歩し続ける。	<input type="checkbox"/>
自己管理：	自分の考えで行動する。	<input type="checkbox"/>
欲望：	五感を刺激する経験を創造し、求め、楽しむ。	<input type="checkbox"/>

性欲：	自分の性を探求し、表現する。	<input type="checkbox"/>
精神性：	自分自身より大きいものとつながる。	<input type="checkbox"/>
熟練：	継続した練習と技術の向上、それらを使うときに十分に専心する。	<input type="checkbox"/>
協力的：	自分や他者に、協力的、助けになり、支持的でそれらが可能である。	<input type="checkbox"/>
信頼：	信用できる；誠実、信頼できる、忠実、頼りになる。	<input type="checkbox"/>

**練習9：効力のある消費者参加指針**  
(略)

**練習10：1ページで自分のプロフィールを作成しましょう**

あなたが誰か（人から良いと言われることは何か、あなたにとって大切なことは何か）、どのように支援されたいかを概観する、1ページのプロフィールを完成させましょう。

**練習11：パーソンセンタードの支援者の質の確認**

パーソンセンタードの支援者の質を考え、少なくとも10個リストをあげましょう。

パートナーを作り、作成したリストを共有し、話し合しましょう。

話し合いの後で、変えたければリストを作りかえてかまいません。その後優先順位をつけてください。最も重要だと思う質から順に番号を振ります。(中略) その後、自分の実践を振り返り、すでに十分に行えているものにチェックをし、次の2週間で行いたい2つの質に星印をつけましょう。

**練習12：家族との仕事関係の評価**  
(略)

**練習13：セリグマン<sup>vi</sup>の仲間との相互支援ワークシートを用いて**

Seligman の手順を参考に、職場における相互支援の実践に誘いたい同僚を思い浮かべましょう。

同僚との相互支援のワークシート

1. あなたの役割は、仲間を励まして、素晴らしいウェル・ビーングの達成と、人間としての成熟のために、小さいが重要な変化を促すことです。
2. このことは、ポジティブ心理学の演習です。
3. このことは、仲間の話を深く聞くことと、積極的なパーソンセンタードへのすべての移行を賞賛すること含みます。
4. パーソンセンタードの旅がどのように進んでいるか、進捗状況を伝えるように促しましょう。
5. もしあなたの仲間がやる気をなくし、彼ら自身についてネガティブな意見を述べたら、穏やかに、ポジティブな意見に言い直し、継続を提案し、そのことをくどくどと述べません。
6. アドバイスを与えること避け、聞くことに焦点を当てましょう。
7. 可能な時はいつでも賞賛しましょう—あなたの賞賛を本物で誠実なものにしてください。
8. 仲間を支えることを感謝する。うまくいけば、あなたも同様な道のりを楽しむことができるでしょう。

練習14：パーソンセンタードの実践のためのサポートネットワークの開発

職場内で次のプロセスを使用し、月毎に評価しましょう。

各参加者は、順番にファシリテーターを担当します。ファシリテーターは、いくつかのラウンドを用いて、そのプロセスにグループを導きます。

**気持ちのラウンド：**ファシリテーターは「今どんな気分ですか?」とたずねます。

メモ: グループのメンバーは、ラウンド中はお互いにコメントを述べませんが、何かコメントしたいことがあれば、全員が話した後に述べます。

**第2ラウンド：**ファシリテーターは、「パーソンセンタードに関して、私たちの組織でできていることは何でしょうか?」とたずねます。全員が順番に話したら、一部で達成されている良いことを、組織の他の領域に拡大する方法に焦点を当てて、一般的な議論を行います。時間に留意しましょう。

**第3ラウンド：**ファシリテーターは、「パーソンセンタードに関して、組織でできていないことは何でしょうか?」とたずねます。全員が順番に話したら、変更/改善のための積極的な提案に焦点を当てて議論を行います。これらを記録するためのレコーダーがいるかもしれません。

**第4ラウンド：**ファシリテーターは、「パーソンセンタードに関して、『自分のためになっていることは…』という言い方で、あなたのためになっていることを示して下さい」と促します。ラウンド中にそれぞれの発言にコメントをしないことに気をつけて—全員が話すまで待ち、さらに反映させたい他者の発言を心に留めます。

**第5ラウンド：**ファシリテーターは、「パーソンセンタードおよび/またはプログラムに関連して、自分のためにならないことは何ですか?」と質問し、「私のためにならないことは…」という言い方で順番に話します。全員が話をするまでコメントをせず、コメントをしたい時は、「私のためになっていると思われることは…」や、「…は考えましたか?」という制動を用います。時間に留意してください。

**最終ラウンド:**「あなたは今どのような気分で、共に過ごした時間はあなたにとってどうでしたか?」と質問します。

### 練習15: ある名前を振り返る

(略)

### 練習16: あなたの人生の道標を振り返る

あなたの人生の道標のリストをあげます。－深く考えず迅速に行いましょう。

自分で読み返し、好きなように削除や追加、明確化または展開しましょう。

対立したかもしれないと思われる分岐点を追加しましょう。

分岐点を1つ選択し、それについて短い文を書きます。他のことを書いても構いません。注意深く読み、追加または削除します（否定的な批判には耳を貸さず）。

### 練習17: 職場での振り返り

振り返りに時間をかけ、先週のあなたの仕事/個人の実践について深く考えましょう。他の人との相互作用、特に障害を持つ人だけでなく、管理、リードする人、報告する人々との相互作用を振り返り、すぐに先週のあなたの実践の鍵となる要素/要点を記述します。5分間、ペンを置かず心に浮かぶことをすべて書き出します。書いたことを他の人に表示する必要はありません。書いたことに対してコメントを述べましょう。

### 練習18: 最新の維持

(略)

### 練習19: 専門性の進展計画

パーソンセンタードの倫理的実践者としての役割を持つ専門性の進展計画を考えて、完成させます。

#### 1. 生活とパーソンセンタードの支援の哲学の開発・維持

「哲学は個々の行為・思考を導く上で役立つ統合

された個人の視点である」(Good, 1953)

哲学は、真理、論理および美の賛美など、人生の多くの側面を含んでいます。非常に実用的で、上記の定義の通り、行動の指針であり、あなたが人（障がいの有無に関わらず）をどれほど価値があると見なすか、支持する理想、現在の問題に対するあなたの立ち位置などを含み、特にあなたの働き方に影響を及ぼします。

#### 2. 専門的役割の明確化

パーソンセンタードのサポートワーカー/マネージャーとして何をしますか?

役割を効果的に行うために必要な習得すべき能力を書きましょう。

あなたの現在の強み（習得した能力）と現在のニーズ（習得し、改善する必要がある能力）を明らかにしましょう。

#### 3. 支援

あなたがパーソンセンタードの専門性の進展計画を進めるために必要な支援は何ですか。その支援のために誰にアプローチしますか?

#### 4. 資源

あなたを助け、計画を達成するために、どのような資源が必要ですか。

#### 5. 計画の実施

#### 6. 評価、修正、調整

(Endnotes)

i Patricia O'Brien, Emma Doukatis, Ray Murry, 2013, Community Service Work in Person Centredness, Module 1, Assessment Booklet-Version 3, Sydney Learning Pty Ltd.

本稿では、その中のP12-32を訳した。

ii 朝比奈ミカ、北野誠一、玉木 幸則 (2013) 「障害者本人中心の相談支援とサービス等利用計画ハンドブック」ミネルヴァ書房

iii 1997年にTrevor Permenter教授らが「Centre for Development Studies」として創立し、2008年に「Centre for Disability Studies」に名称を変

更した。現在の所長はPatricia O'Brienである。

iv オーストラリア国内では、国レベルでNational Disability Insurance Schemeという大きな障害者制度改革が進んでおり、NSW州は国の改革を牽引するように州内で障害者制度改革を進めてきた中で、パーソンセンタードは、NSW州の制度改革の軸とされている。障害学センターは、行政の示すパーソンセンターの理念と実践の溝を埋める必要性を感じ、講座を開設したことや、2016年度以降はスタイルを変えて開講予定であることを、2015年に受講した際にコーディネーターのKylieより聞いた。

オーストラリアの障害者制度改革については、木口恵美子 (2015) 「オーストラリアにおけるダイレクト・ペイメントの潮流」『現代社会研究』第12号P163-171を参照。

v Dr.Russ Harrisは医師であり「Acceptance & Commitment Therapy (ACT)」のトレーナーである。主な著書に「The Happiness Trap」, 「The Confidence Gap」(2011) (=2015, R.ハリス著、岩下慶一訳『幸福になりたいなら幸福になろうとしてはいけない』筑摩書房) などがある。

価値のリストは「The Confidence Gap」に掲載されている。

vi Martin.Seligmanは心理学者で「ポジティブ心理学」の創設者で、ペンシルベニア大学のポジティブ心理学センター長である。主な著書に「Flourish」(2012) (=2014, M.セリグマン著、宇野カオリ監訳『ポジティブ心理学の挑戦－“幸福”から“持続的幸福”へ』ディスカヴァー・トゥエンティワン) などがある。